

台湾の港と船・駆け足巡り

会員 福富 廉

コロナ禍を経て5年ぶりに台湾を訪れた。今回は家族と一緒に観光旅行だったため、船については多くを望めなかったが、だいぶ変わったところも有ったので、その辺を少しレポートしたい。(帰日してからほど経たないうちに台湾東部で大地震が発生し驚いていますが、早期の復興を祈りたいところです。)

1. 基隆港

(学会ニュース 2019-217 (0116)【台湾北部紀行 後編】を参照していただければ)

台湾に行くと、必ず基隆港、それも観音像のある中正公園へ行く。駅前からタクシーで上がって、帰路は徒歩で帰ってくる。今は目の前にビルが聳え立って景色はそれほど良くないが、客船の入出港があれば見下ろすことができるし、西岸クルーズターミナルに入港中のクルーズ船やフェリーを見ることができる。今回は、客船もフェリーも在泊していなかったが、代わりに台湾海軍の軍艦が泊っていて、何かのイベントをしているようだった。基隆港や高雄港の商港にもいつも軍艦がいるが、いつもは補助艦や古い軍艦ばかりだったところで、この時ばかりは比較的新しい軍艦を見られたように思う(台湾の軍港は北の蘇澳港と南の左営港)。

帰路に今まで無かった港に突き出たタワーを見つけた。昨年完成した基隆タワーで、下からエレベーターで上がってこられる新名所のように、いまだに無料化が続いていて、西岸クルーズターミナルのクルーズ船を真正面に見られる場所だった。

当日は土曜日で、外装を黒船化した港巡りの遊覧船もほぼ毎時稼働していた(乗船者が15人から運航するそうで、それに達しないと直前まで出港するかどうか不明とのことだった)。

また、観光地の九份へ行く途中のバスが基隆港の東の八斗子漁港近くの国立海洋科技博物館の脇を通った。以前に紹介した場所だが、水族館が増設され、周囲の様子もにぎやかになっているようだった。こちらも、ぜひ再訪してみたい。



黒船化した基隆港の港巡り観光船「熱海1号」



↑基隆タワー



中正公園からの港の景色

↑港口



基隆タワー



基隆タワーの正面に見える西岸クルーズターミナル
フリゲート「迪化」(1206 Di Hua) (左)と補給艦「磐石」(532 Pan Shi)

2. 淡水

台北郊外の淡水付近の遊覧船の様子はあまり変わっていなかった。淡水河を渡る八里の渡しはそのままだ。淡水老街（商店街）からフィッシャーマンズワーフへ行く遊覧船は平日で動いていなかったが、顔ぶれはあまり変わっていないようだった。ただし、目の前で大きな架橋工事（淡江大橋）が進んでいて、フィッシャーマンズワーフまではLRTが通じていたので、今後、色々変わるかもしれない。LRTの途中には台北海洋科技大学（東京海洋大学に相当するもの）もあった。



八里の渡し「順風臺佰貳拾捌號」(順風第128号)



淡水フィッシャーマンズワーフに泊まる遊覧船



淡水フィッシャーマンズワーフと情人橋（恋人橋）



台北海洋科技大学入口（中央左に灯台がある）

3. 台南・安平港

台南は昔オランダ人が根拠地とした古い町で人気の観光地でもあるが、港巡りや運河巡りの遊覧船も走っていたので紹介しておきたい。



安平港の港巡り遊覧船「安平港1号」



安平港の遊覧船「戀之海」



安平港の遊覧船（主に、運河巡り）

4. 高雄港

藤木会員の学会ニュース 2023-228 (0311) 【台湾・高雄 撮影旅行】ともダブルが、高雄の街も中央駅が完全にリニューアル（完成まではもう少し）されたのに加え、LRTの環状線が開通したことで、後者によって、港巡りの利便性が格段に上がった。中でもMRTの西子湾駅（対岸の旗津への最寄り駅）と乗り換えできる哈瑪星（はません）駅から真愛ふ頭やクルーズターミナル駅を経て凱旋中華駅までの間は港巡りにとても便利なので、次回は歩き回ってみたい。

鼓山から旗津へのフェリーは、鼓山旅客ターミナルが新しくなっている他、多くの船に新たなラッピングが施されていた。きれいかどうかは感じ方次第だが、



鼓山フェリーターミナルの
新船「雄棧1号」（右写真参照）と「快樂」



2024年1月竣工の新造電動フェリー「雄棧1号」
最初の1か月だけ「ラバーダック」のラッピング
（高雄市輪船のHPより転載）



「旗鼓一號」とランドマークの高雄 85 大楼



「旗鼓二號」



「旗福一號」右舷は対称的に真っ黒



「旗福二號」



「健康」



「幸福」



澎湖諸島行きフェリー「澎湖」(PENGHU)
2023年8月内海造船で竣工した新造船 9,932GT



倉庫街 KW2 (商業施設) と遊覧船群
中央左は「旗福一號」の黒い右舷、他は文化遊艇の遊覧船



台湾・海巡署のトリマラン・巡防救難艦「安平」(CG601)
高雄の中信造船建造



高雄第1港口から入港してきた「WAN HAI 275」(石春)

5. 花蓮港

太魯閣峡谷観光の拠点、花蓮。かつては基隆港との間に「花蓮輪」(元、るびなす)、また、一時は「麗娜輪」(元、ナッチャン RERA) がここと蘇澳港や石垣島との間を走っていたこともあるところで、少し前に、私は花蓮に寄港するクルーズを予約して楽しみにしていたが、それがキャンセルになって、その後は実現はしていない。「クイーン・エリザベス」や「ダイヤモンド・プリンセス」等の寄港が今後増えて行くようだ。

今回は細長い港の入口付近しか行けなかったもので、次回は奥の方の内港側にも行ってみたい。
ちなみに、「麗娜輪」は最近、ギリシャへ売却されたとの報道があった。



花蓮港の港口付近 中央右のかまぼこ型の建物がクルーズターミナルで港口は右側